

第3次新潟市環境基本計画 評価指標の達成状況

	指標項目	基準値 (年度)	実績値 (年度)								目標値	目標値に対する 達成度
			2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)		
Ⅰ 低炭素社会の創造	I-1 市域の温室効果ガス排出量	710万 t-CO ₂ (2011(H23))	685万t-CO ₂	686万t-CO ₂	661万t-CO ₂	635万t-CO ₂	—	—	—	—	624万 t-CO ₂ (2018(H30))	○
	I-2 もみ殻などのバイオマスエネルギーの活用	— (—)	活用を検討	モニター事業で活用	モニター事業で活用	民間で活用	—	—	—	—	活用の実現 (—)	◎
	I-3 太陽光発電システム導入量(10kW未満)	18,000 kW (2013(H25))	18,000kW	27,700kW	30,265kW	33,305kW	—	—	—	—	36,000 kW (2018(H30))	○
	I-4 自動車利用の削減	— (—)	—	—	2.6%増加	2.6%増加	—	—	—	—	2.5% 削減 (—)	—
	I-5 1世帯あたりの電気使用量(年間)	3,612 kWh (2013(H25))	3,465kWh	3,334kWh	—	—	—	—	—	—	3,160 kWh (2018(H30))	—
	I-6 1世帯あたりの二酸化炭素排出量	4.2 t-CO ₂ /世帯 (2016(H28))	—	—	—	—	4.5t-CO ₂ /世帯(H29確定値)	4.2t-CO ₂ /世帯(H30確定値)	4.0t-CO ₂ /世帯(R1確定値)	3.9t-CO ₂ /世帯(R2暫定値)	3.6 t-CO2/世帯 (2024(R6))	○
	I-7 市内1事業所あたりの二酸化炭素排出量	96.2 t-CO ₂ /事業所 (2016(H28))	—	—	—	—	97.4t-CO ₂ /事業所(H29確定値)	93.9t-CO ₂ /事業所(H30確定値)	84.7t-CO ₂ /事業所(R1確定値)	76.7t-CO ₂ /事業所(R2暫定値)	96.3 t-CO2/事業所 (2024(R6))	—
	I-8 電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV)台数	(E V) 833 台 (PHV) 671 台 (FCV) 2 台 (2018(H30))	—	—	—	—	(E V) 951台 (PHV) 743台 (FCV) 10台	(E V) 1,040台 (PHV) 829台 (FCV) 24台※	(E V) 1,138台 (PHV) 946 台 (FCV) 36台※	(E V) 1,558台 (PHV) 1,163台 (FCV) 44台※	(E V) 2,500 台 (PHV) 2,800 台 (FCV) 60 台 (2024(R6))	△
	I-9 区バス・住民バス利用者数	52.1 万人/年度 (2018(H30))	—	—	—	—	51.5万人/年度	43.3万人/年度	46.4万人/年度	48.5万人/年度	39.2 万人/年度 (2024(R6))	◎
Ⅱ 循環型社会の創造	Ⅱ-1 家庭系ごみ量(1人1日あたり)	501 g (2013(H25))	500g	488g	487g	488g	492g				474 g (2019(R1))	△
	Ⅱ-2 事業系ごみ排出量	84,962 t (2013(H25))	78,224t	78,399t	79,267t	79,186t	78,718t				74,500 t (2019(R1))	△
	Ⅱ-3 リサイクル率	27.2 % (2013(H25))	27.8%	27.9%	26.7%	26.4%	25.7%				30.9 % (2019(R1))	△
	Ⅱ-4 最終処分量	29,213 t (2013(H25))	22,350t	21,712t	22,319t	24,261t	21,787t				21,800 t (2019(R1))	◎
	Ⅱ-5 家庭系ごみ量(1人1日あたり)	488 g (2018(H30))	—	—	—	—	492g	505g	496g	496g	475 g (2022(R4))	○
	Ⅱ-6 事業系ごみ排出量	79,186 t (2018(H30))	—	—	—	—	78,718t	71,161t	72,272t	72,659t	77,300 t (2022(R4))	◎
	Ⅱ-7 リサイクル率	26.4 % (2018(H30))	—	—	—	—	25.7%	26.3%	24.4%	23.6%	27.1 % (2022(R4))	○
	Ⅱ-8 ごみ総排出量(1人1日あたり)	1,006 g (2018(H30))	—	—	—	—	1,001g	990g	978g	968g	987 g (2022(R4))	◎
Ⅲ 生物多様性の保全	Ⅲ-1 生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数 (2013(H25))	現状を維持(9,233羽:14%)	現状を維持(10,979羽:17%)	現状を維持(14,253羽:21%)	現状を維持(12,027羽:17%)	現状を維持(8,303羽:13%)	現状を維持(14,958羽:22%)	現状を維持(14,958羽:17%)	現状を維持(13,360羽:30%)	現状を維持 (2022(R4))	◎
	Ⅲ-2 特定外来生物の種類	10 種 (2013(H25))	11種	11種	11種	12種	13種	14種	14種	14種	現状より減少 (2022(R4))	△
	Ⅲ-3 環境保全型農業を実施する農地の割合	34.4 % (2013(H25))	35.64%	35.91%	35.4%	30.4%	26.44%	25.27%	24.7%	24.17%	50 % (2022(R4))	△
Ⅳ 快適な生活環境の創造	Ⅳ-1 生活環境における空気のきれいさ 沿道における空気のきれいさ	0.007 ppm 0.009 ppm (2013(H25))	0.007ppm 0.009ppm	0.006ppm 0.007ppm	0.007ppm 0.009ppm	0.005ppm 0.007ppm	0.005ppm 0.007ppm	0.005ppm 0.007ppm	0.005ppm 0.006ppm	0.005ppm 0.006ppm	現状より低減 (2022(R4))	◎
	Ⅳ-2 水がよりきれいなランクになった河川・湖沼の水域数	— (—)	0地点	0地点	0地点	-1地点	1地点	0地点	-1地点	0地点	3 地点 (2022(R4))	△
	Ⅳ-3 食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30 団体 (2013(H25))	80団体	70団体	78団体	67団体	82団体	51団体	58団体	49団体	70 団体 (2022(R4))	△
	Ⅳ-4 保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48 % (2013(H25))	49%	47%	54%	54%	54%	47%	45%	47%	60 % (2022(R4))	△
	Ⅳ-5 植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合	78 % (2013(H25))	83.7%	84.3%	85.7%	86%	85.7%	85.3%	86.3%	87.3%	90 % (2022(R4))	△
環境教育と協働の推進		低炭素社会の創造、循環型社会の創造、生物多様性の保全、快適な生活環境の創造の各施策に掲げる目標を、当該施策に掲げる指標とする。										

(注) ・ 「低炭素社会の創造」「循環型社会の創造」は、個別計画の策定に伴い令和元(2019)年度に目標を再設定している。
・ 達成状況に記載がない項目については、算出根拠となる調査などが終了したことなどに伴い計画期間内の数値を全て把握できなかったため、達成状況の評価を行っていない。
※ I-8 燃料電池自動車(FCV)台数の令和2～4年度数値は、県内の台数。

表 1-2-1：第3次計画における成果指標に基づく評価と課題

施策の柱	指標項目	基準値 年度	目標値 年度	実績 年度	
Ⅰ 低炭素社会の創造	市域の温室効果ガス*排出量 ★	710万t CO ₂ 2011〔H23〕	624万t CO ₂ 2018〔H30〕	635万t CO ₂ 2018〔H30〕	
	もみ殻などのバイオマスエネルギー*の活用 ★	—	活用の実現	民間で活用	
	太陽光発電システム導入量（10 kW 未満）★	18,000kW 2013〔H25〕	36,000kW 2018〔H30〕	33,305kW 2018〔H30〕	
	自動車利用の削減 ★	—	2.5% 削減	2.6% 増加	
	1 世帯あたりの電気使用量（年間）★	3,612kWh 2013〔H25〕	3,160kWh 2018〔H30〕	3,334kWh 2016〔H28〕	
	1 世帯あたりの二酸化炭素排出量	4.2t-CO ₂ /世帯 2016〔H28〕	3.6t-CO ₂ /世帯 2024〔R6〕	4.0t-CO ₂ /世帯 2019〔R1〕	
	市内 1 事業所あたりの二酸化炭素排出量	96.2t-CO ₂ /事業所 2016〔H28〕	96.3t-CO ₂ /事業所 2024〔R6〕	84.7t-CO ₂ /事業所 2019〔R1〕※ 1	
	電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）、燃料電池自動車（FCV）台数	EV 833 台 PHV 671 台 FCV 2 台 2018〔H30〕	EV 2,500 台 PHV 2,800 台 FCV 60 台 2024〔R6〕	EV 1,138 台 PHV 946 台 FCV 36 台※ 2 2021〔R3〕	
	区バス・住民バス利用者数	52.1 万人 2018〔H30〕	39.2 万人 2024〔R6〕	46.3 万人 2021〔R3〕	
	Ⅱ 循環型社会の創造	家庭系ごみ量（1 人 1 日あたり）★	501g 2013〔H25〕	474g 2019〔R1〕	492g 2019〔R1〕
事業系ごみ排出量 ★		84,962t 2013〔H25〕	74,500t 2019〔R1〕	78,718t 2019〔R1〕	
リサイクル率 ★		27.2% 2013〔H25〕	30.9% 2019〔R1〕	25.7% 2019〔R1〕	
最終処分量 ★		29,213t 2013〔H25〕	21,800t 2019〔R1〕	21,787t 2019〔R1〕	
家庭系ごみ量（1 人 1 日あたり）		488g 2018〔H30〕	475g 2022〔R4〕	496g 2021〔R3〕	
事業系ごみ排出量		79,186t 2018〔H30〕	77,300t 2022〔R4〕	74,903t 2021〔R3〕	
リサイクル率		26.4% 2018〔H30〕	27.1% 2022〔R4〕	24.4% 2021〔R3〕	
ごみ総排出量（1 人 1 日あたり）		1,006g 2018〔H30〕	987g 2022〔R4〕	978g 2021〔R3〕	
Ⅲ 生物多様性の保全		生物多様性*の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数 2013〔H25〕	現状を維持 2022〔R4〕	現状を維持 （11,868 羽） 2021〔R3〕
		特定外来生物*の種類	10 種 2013〔H25〕	現状より減少 2022〔R4〕	14 種 2021〔R3〕
	環境保全型農業*を実施する農地の割合	34.4% 2013〔H25〕	50% 2022〔R4〕	24.7% 2021〔R3〕	
	Ⅳ 快適な生活環境の創造	生活環境における空気のきれいさ	0.007ppm 0.009ppm 2013〔H25〕	現状より低減 2022〔R4〕	0.005ppm 0.006ppm 2021〔R3〕
水がよりきれいなランクになった河川・湖沼の水域数		—	3 地点 2022〔R4〕	1 地点 2021〔R3〕	
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数		30 団体 2013〔H25〕	70 団体 2022〔R4〕	58 団体 2021〔R3〕	
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率		48% 2013〔H25〕	60% 2022〔R4〕	45% 2021〔R3〕	
植栽やビオトープづくり等、美しい農村景観の形成を行う農地の割合		78% 2013〔H25〕	90% 2022〔R4〕	86.3% 2021〔R3〕	
★ は、終了又は目標値が変更となった指標項目					
「環境教育と協働の推進」については、「低炭素社会の創造」「循環型社会*の創造」「生物多様性の保全」「快適な生活環境の創造」の各施策に掲げる目標を、当該施策の指標としている。					
「低炭素社会の創造」「循環型社会の創造」は、個別計画の策定に伴い令和元（2019）年度に目標を再設定している。					

★ は、終了又は目標値が変更となった指標項目

- ・「環境教育と協働の推進」については、「低炭素社会の創造」「循環型社会*の創造」「生物多様性の保全」「快適な生活環境の創造」の各施策に掲げる目標を、当該施策の指標としている。
- ・「低炭素社会の創造」「循環型社会の創造」は、個別計画の策定に伴い令和元（2019）年度に目標を再設定している。
- ・達成状況に記載がない項目については、算出根拠となる調査などが終了したことなどにより計画期間内の数値を全て把握できなかったため、達成状況の評価を行っていない。

※注1 暫定値 ※注2 県内の台数

◎：目標を達成している ○：目標を概ね（80%以上）達成する見込みである △：目標達成が難しい状況である

評価	主な評価と課題
○	【評価】 <ul style="list-style-type: none">・1世帯あたりの二酸化炭素（CO₂）排出量は年々減少傾向にあります。・一方、他の政令指定都市と比較して、家庭部門の世帯当たりの排出量はワースト2位となっており、夏蒸し暑く冬寒い北陸地方特有の気候条件や延べ床面積の広さ（政令指定都市1位）が、「1世帯あたりの二酸化炭素排出量」の目標未達成の主な要因として考えられます。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・市域から排出される二酸化炭素（CO₂）排出量は、基準年度の2013年度比で年々減少傾向にあります。家庭部門への対策の促進、脱炭素経営*を目指す企業の支援、地域の事業者主体による自立分散型再生可能エネルギー*大量導入の仕組みづくりをさらに進めていくことが必要です。・運輸部門への対策として、過度な自家用車利用から公共交通や自転車利用・徒歩への転換を促進すること、また電気自動車など次世代自動車*への転換などを推進していく必要があります。
◎	
○	
—	
—	
○	
—	
△	
◎	
△	
△	【評価】 <ul style="list-style-type: none">・家庭系ごみ量の削減に向け、広報活動や生ごみ減量事業等を展開しましたが、目標達成には至りませんでした。・事業系ごみについては、事業系廃棄物処理ガイドラインの周知が、排出量の削減につながりました。・総じてごみ総排出量は減少しました。新型コロナウイルス感染症の影響による市民の在宅時間の増加と、事業活動の制限も要因の一つ考えられます。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・わかりやすい情報発信や若年層への意識啓発など、市民の意識醸成の取り組みを引き続き進める必要があります。・事業系廃棄物処理ガイドラインの周知と大規模事業所への訪問指導などによる、適正排出と排出量削減に向けた取り組みが必要です。
◎	
○	
◎	
○	
◎	
◎	
◎	
◎	
◎	
◎	【評価】 <ul style="list-style-type: none">・特定外来生物は確認種数が増加している傾向が見られ、引き続き対応が必要です。・環境保全型農業*を実施する農地の割合については、対象となる農地の作付け状況の変化等により、計画策定時点の数値を下回りました。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・生物多様性*の保全や環境負荷の軽減などについて、さらなる普及啓発の取り組みが必要です。
△	
△	
◎	【評価】 <ul style="list-style-type: none">・空気のきれいさについては、自動車排出ガス規制や次世代自動車の普及、大規模工場からのばい煙排出濃度の改善等により、十分に低い濃度で推移しています。・水のきれいさについては、工場・事業場の排水規制、下水道整備及び合併処理浄化槽*の普及促進による生活排水対策等により改善傾向ですが、ランクアップには更に時間を要すると思われます。・花育体験プログラムについては、新型コロナウイルス感染症の影響があったと考えられ、今後は、コロナ禍でも実施可能な花育活動のあり方を検討していきます。 【課題】 <ul style="list-style-type: none">・環境基準*未達成項目における原因の解明や対策の継続が必要です。
△	
○	
△	
○	